

氏名	須藤 浩一郎
学位の種類	医学博士
学位授与番号	乙 第374号
学位授与の日付	昭和44年6月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学位論文題目	広範な斑紋状脱髓を呈した急性モルフィン中毒の1例
論文審査委員	教授 奥村 二吉    教授 山崎 英正    教授 小川 勝士

### 学位論文内容の要旨

深い昏睡と強い循環障害後一時寛解状態に達したが、コルサコフ症候群を残したまま42日の経過で死亡したモルフィン中毒例について研究した。脳白質に広範な浮腫と脱髓があり、半卵円中心ではえ死巢の他、血管周囲性細胞浸潤を認め、灰白質は小脳と被殻のごく小さなえ死巢の他は神経細胞に脂肪増加が見られるだけであった。白質病変はモルフィンの直接作用ではなく、高度の浮腫の結果と考えられる。

脱髓はCO中毒間歇型の際に見られるような斑紋状であり、より浮腫の強い所ではどちらかと言えば血管周囲性に脱髓が強く、浮腫の弱い所では逆に血管周囲性に髓鞘が島状に残っていた。前者では浮腫によって特に血管周囲に脱髓が進み、後者では浮腫が血管周辺だけ回復したため、同じ斑紋でも一方は病変がより進行したために、他方は回復過程にあるために生じたもので、逆の関係にあると考えられる。

昭和43年12月1日 九州神経精神医学第14巻3～4号 198頁掲載

## 論文審査の結果の要旨

本研究は、急性モルフィン中毒により昏睡となり後に一時寛解したが再び悪化して42日後死亡した症例の脳を組織病理学的に詳細に研究したものである。本例に於て或る処では血管周囲性に脱髄は強くおこり、或る処では血管周囲性に髄鞘が残っていた。本研究者はその成因に疑問を持ち種々研究考察の結果、前者は病変が進行したため、後者は回復過程にあるために生じたものと結論した。脳の斑紋状脱髄に関して新しい知見を得た価値ある業績であると認める。

よって本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。